

子供の目で見た川越まつり



小江戸川越観光グルメ大使の脇知弘さん、川合善明川越市長が狸々の山車体験引きに参加

10月17日・18日の2日間行われた、今年の川越まつり。75万人の人出*で、にぎわいました。囃子をする子供、山車を引く子供、そして、肩車で曳っかわせを見る親子など子供たちの目を通して見た川越まつりの1コマを集めました。

*人出の調査方法は、重複算出しないように、昨年までの方法を変更。主要会場への流入者数をカウントする方法に改めました。



ほら、見ておらん



いよいよ本番！



パパ、獅子舞にかまれた～



仲町交差点での曳っかわせ



指のきつねと、曳っかわせ



足袋ってどうなってるのかな？



ママと一緒にまつり参加



「1日歩くと、疲れるよね～」

ドラマ「つばさ」記念碑が完成



10月10日の除幕式

鏡山酒造跡地・昭和蔵前に設置された記念碑は、高さ2.25m。「つばさ」のロゴマークと和菓子「甘玉」をイメージしたステンレス製のモニュメントが、御影石の台座に乗っています。東京芸術大学大学院1年の木戸龍介さん(25歳)が「絆」をテーマに、約半年間かけて作り上げました。除幕式には、小江戸川越観光グルメ大使の脇知弘さんら40人が参加。川合善明川越市長が「市の新しい観光スポットになって欲しいです」と新名所をPRしました。

大きな冬瓜が出現

長さ1.2m、重さ80kgはありそうな大きな冬瓜が、鈴木松雄さん(68歳・宮元町)の畑で収穫されました。車に乗せるのに3人がかり。ここ数年で一番の大きさです。「味は普通の大きさの冬瓜と変わらず、あんかけや油いためなど、大根と同じように料理すれば、おいしく食べられます」。数年前、豆腐の代わりに冬瓜を使った、アイデア料理「マーボーとうがんラーメン」を孫がコンテストに出品。以降、家族の定番料理として食べているそうです。



どんなふうに聞こえるかな

ウサギの鼓動って、こんなに早いのか！

10月25日、市保健所で「動物ふれ愛まつり」が開催されました。当日は、やぎや羊などとふれあうコーナーが大人気。「とっても温かい」とか「ふわふわして、気持ちいい」など、動物に触れた子供たちの声。また、ウサギの心臓の鼓動を聴診器で聞く体験教室があり、命の大切さを肌で実感。参加者たちは、命のある動物の“温かさ”を耳と体で感じていました。



「将来は、パラリンピックに出場し、またメダルを手にとってみたいです」と、齋藤くんは笑顔で話してくれました。

録を十五秒も縮めました。県の代表として、大会への出場が決まり、毎日十キロメートル以上練習しました。成人と混ざってのリレーでは第三泳者として出場。「会場でたくさんの人から声援をもらい、勇気づけられたこと、勝ちたいという強い気持ちを持ち続けたことが、この結果につながったと思います。惜しくも金メダルを逃しましたが、優勝を争う大接戦。

水泳を始めたのは、浮輪を使っても潜ってしまいい、うまく泳げなかった海水浴がきっかけ。小学校の六年間、オアシス水泳教室に通い、中学では、迷わず水泳部に入部しました。「タイムを上げる練習がきついですね。そんなときは、友達と励まし合いながら頑張ります」。得意の泳法はクロール。中学校三年間の猛練習で、五十メートルの記録を十五秒も縮めました。

銀メダルを獲得しました。水泳を始めたのは、浮輪を使っても潜ってしまいい、うまく泳げなかった海水浴がきっかけ。小学校の六年間、オアシス水泳教室に通い、中学では、迷わず水泳部に入部しました。「タイムを上げる練習がきついですね。そんなときは、友達と励まし合いながら頑張ります」。得意の泳法はクロール。中学校三年間の猛練習で、五十メートルの記録を十五秒も縮めました。

齋藤巧くん(15歳)

かわごえ
川越
びと

59